

ずいひつ No.106

2015年1月25日発行

冬の星座

月と狩人オリオンの物語

1等星・シリウス



☆冬の星空には1等星が7つと2つの星団!!

冬の星空は、1年で最も明るい星が多く見えます。星座を作る星には1等星が21個ありますが、冬にはそのうちの7つがあります。なかでも大犬座の1等星・シリウスは都会の夜空でも見つけることができるくらいの明るい星です。その他にも、牡牛座の右目あたりにある1等星・アルデバランからV字に集まっている星の事をヒアデス星団、アルデバランから西の方にはごちゃごちゃとしたプレヤデス星団があります。プレヤデス星団は日本名で“すばる”のことです。

1月～2月にかけて見ることのできる主な星座

オリオン座(1等星:ベテルギウス、リゲル)・牡牛座(大神ゼウスの化身・1等星:アルデバラン)・うさぎ座
大犬座(1等星:シリウス)・ぎょしゃ座(1等星:カペラ)・小犬座(1等星:プロキオン)・双子座(1等星:ポルクス)

☆星空観察は、晴れた日の月が出ていない時がオススメ!!

晴れている日でも、十五夜のような月が明るい夜空ではなく、新月のような月明かりがない日がオススメです。

☆ギリシャ神話の登場人物が星座になっています。冬の星座では、オリオン座の神話が一番有名です。オリオンはギリシャ神話で多くの物語がありますが、なかでも有名な月との物語を紹介します。



月とオリオン座

☆狩人オリオンと月と狩りの女神アルテミスの恋物語

オリオンは、海神ポセイドンとミノス王の娘エウリュアレーとの間に生まれた、

類い希な美青年でした。オリオンは優れた狩人の腕前をもち、また海の上を歩く能力も備わっていました。

月と狩りの女神アルテミスと仲がよく、いつか結婚するだろうと言われていました。しかし、それを知ったアルテミスの兄アポロンは(自分は人間と結婚したのに)妹が半分人間の血であるオリオンと結婚する事を認めず、2人を引き離しにかかります。

海から出ているオリオンの頭を、黄金の岩と偽り、アルテミスに弓をいらせるのです。オリオンは、何も知らないアルテミスが放った矢で死んでしまいます。その事を大変悲しんだアルテミスは、大神ゼウスに頼んで、オリオンを星座として夜空に上げてもらいました。今でも冬の夜には、オリオンに会うために、月がオリオン座を通っていきます。

しかし、オリオンの死因には諸説があります。そのなかでも特に有名な物語は、サソリに関わるものです。

☆天の獵師オリオンと大きさ

オリオンは、ギリシャ神話で一番の狩人でした。しかし、そのうち力を自慢するようになりました。見かねた女神ヘーラは、オリオンをこらしめるために、彼の足元に大きなサソリを放ちました。さすがのオリオンもサソリの毒には勝てず、命を落としてしまいました。今でもサソリが苦手なオリオンは、サソリ座が東の夜空に上がってくると、そそくさと西の夜空に沈んでいきます。

オリオン座の月やサソリ座との関係が分かった上で星空を眺めると面白いですね。オリオン座の神話は他にもあります。歯学・薬学図書館には、星座に関する図書やギリシャ神話に関する図書も所蔵しています。星が明るく綺麗に見えるこの季節に、星空を眺めながらギリシャ神話を読んでみてはいかがでしょうか? (新米司書A)

参考文献:

『ガールズ・スターウォッチング・ブック 星空がもっと好きになる』 駒井仁南子/著 誠文堂新光社 請求記号:442/Ko

『新四季の星座 見つけ方と楽しみ方』 藤井旭/著 主婦の友インフォス情報社 請求記号:443/Fu